

首都圏段戸会会報

平成19年10月
第20号

発行責任者
首都圏段戸会
会長 外村 仁
編集発行人
広報担当 杉浦 嘉久

世代をつなぐ首都圏段戸会

首都圏段戸会会長
外村 仁 (高八回)



毎年この原稿を書く時期になると、一年の経過は早いものだと痛感しますが、今年は更にその感を深めています。それは私たち高校生八回生が古稀年次を迎えることになったからです。古稀という文字をそのまま解釈すれば古くから稀なもの、珍しいものといった意味合いで、要するに少数の生き残り老人ということでしょう。長寿社会となった現代にはピンとこない言葉ですが、私も若い頃70歳と言う年齢は随分高齢だと感じたものです。ともあれ、そうした年齢に高八回生も達した次第です。

古稀と言えば岡崎の同窓会ではかねてより総会・懇親会に無料招待の制度があり、私も六月下旬に岡崎へ出かけて参りました。(因みに首都圏段戸会でも昨年より同じ制度を導入しています。)昭和31年に岡崎高校を卒業した同級生

が440名。50余年の間に他界された方々が49名。当日の出席者は110名でした。これまでの古稀年次出席者の最多記録と聞いております。首都圏からも16名が参加しました。総会・懇親会はここ数年の傾向を反映して全体の出席者も増え、大盛況でした。岡高のOB・OGが主体となつている岡崎混声合唱団の出演もあり、近藤先生の指揮の下、格調高い合唱曲から民謡をアレンジした曲まで幅広いレパートリーで楽しませてもらいました。やはり日本一の合唱団はお世辞抜きに素晴らしいと感動しました。昼間の行事終了後私たち古くから稀な一行は蒲郡のホテルへ向かい一泊。還暦以来10年ぶりのクラス会を楽しみました。

さて首都圏段戸会は皆さんのご声援とサポートのおかげで活動の内容もますます充実しつつあります。一つの例が皆さんにお届けしている会報です。従来、年一回発行していましたが、当会の活動状況を皆さんに、よりタイムリーにお知らせしようとして、昨年春から秋号と年二回発行することにしました。また、現役の岡高生に首都圏段戸会の存在や活動を知らうことを目的として在校生にも会報の配布を始めています。最近、卒業生の四分の程度が首都圏の大学に進学していますが、新しい地で生活を始めるに際して先輩のネットワークを頼りにして役立てて欲しい、また将来、若手会員として当会の活動に参加して欲しいと願っています。会報の年二回発行には追加的な労力とコストがかかりますが、担当の世話人の方々のご努力と遣り繰りで何とか継続していきたいと考えています。会員の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

私がここ数年、会長として留意してきたことは主として次の三点です。

(一) 母校を共有する会員に対し

て首都圏段戸会は単に懐旧の情を暖める場所を提供するだけではなく、会員が年次の壁を越えて交流し、お互いに啓発しあい、助けられたり助けたりする場所を提供すること。

(二) 首都圏段戸会の永続性を担保するため若い血(若い会員)の導入を怠らないこと。

そして(三) 母校の発展にペースを合わせて首都圏段戸会も進化していくこと。

大変有難いことですが、以上の三点は世話人の皆さんの賛同を得てひとつずつ具体化され実行されつつあります。ここで詳細に説明するスペースはありませんが、段戸フォーラムや段戸サークルも内容の充実や多様化には見るべき進歩がありました。若い世代への働きかけもいろいろな形で積極的に行われ若い会員の増加に貢献しています。早いもので古稀を迎えてしまつた私のミッションはこのように盛り上がっている首都圏段戸会の活動を確実に次の世代へつないでいくことにあると考えております。

本年度の総会・懇親会は別紙のご案内の通り12月8日(土)に開催されます。岡高コーラス部OB・OGによる演奏も予定しています。皆さん是非お誘いあわせの上ご出席をお待ちしています。

秋号と年二回発行することにしました。また、現役の岡高生に首都圏段戸会の存在や活動を知らうことを目的として在校生にも会報の配布を始めています。最近、卒業生の四分の程度が首都圏の大学に進学していますが、新しい地で生活を始めるに際して先輩のネットワークを頼りにして役立てて欲しい、また将来、若手会員として当会の活動に参加して欲しいと願っています。会報の年二回発行には追加的な労力とコストがかかりますが、担当の世話人の方々のご努力と遣り繰りで何とか継続していきたいと考えています。会員の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成十九年度世話人

- (高2回) 服部 登
- (高3回) 丹羽 鼎
- (高6回) 有馬弘政
- (高7回) 齊藤悦子
- (高8回) 杉浦嘉久
- (高10回) 木村富司雄
- (高11回) 中根 淳
- (高12回) 鶴田文男
- (高13回) 藤田邦弘
- (高14回) 磯尾 進
- (高15回) 満江信之
- (高16回) 鈴木貞雄
- (高17回) 伊与田正彦
- (高18回) 石原莊介
- (高19回) 福山 透
- (高20回) 天野隆太郎
- (高21回) 清水照雄
- (高22回) 青山裕治
- (高23回) 高橋俊光
- (高25回) 戸田讓三
- (高26回) 織田利彦
- (高27回) 高木正巳
- (高30回) 木村美穂子
- (高31回) 高原正之
- (高32回) 堀内友二
- (高34回) 板谷敏正
- (高35回) 板倉信吾
- (高37回) 市川智基
- (高40回) 太田 武
- (高41回) 磯谷陽子
- (高42回) 長野麻子
- (高43回) 倉内雅弘
- (高44回) 安藤 穰
- (高45回) 筒井貴之
- (高46回) 朝岡大輔
- (高48回) 荻野友佑子
- (高49回) 三田桂子
- (高54回) 安藤美保
- (高55回) 中島佑実
- 外村 仁
- 成瀬 徹
- 本多正之
- 水谷鏡子
- 佐伯寛子
- 村木央明
- 辻村貴典
- 丸川美雪
- 上田洋子
- 山口知子
- 山崎正枝
- 米津智徳
- 藤井義之
- 井上由美子
- 竹尾 誠
- 平山健二
- 鴻池 奏
- 西浦瑞恵
- 篠原貴子

●座談会シリーズ第3段!

世界から見た日本

——これから求められる人材とは——

キーワードは

「ダイナミック」と

「一度きりの人生」

長野

今日は、海外で、あるいは海外に関わるお仕事で活躍の皆さんのお話を伺い、その活力と知恵を「日本が沈没しないために何が必要か」を考えるヒントに出来たらと思っております。まず、自己紹介を兼ねてこれまでの経歴等を教えて頂きたいと思えます。若い順に安藤さんからいきましょうか。

安藤

私が大学を卒業した90年代後半には、アメリカのコンサルティング会社が随分日本に進出して来ていました。「アメリカ系のコンサルティング会社に入ると3年間で日系の10年分の仕事ができ、スキルも身に付く」なんて言われ、研修制度にも惹かれてアンダーセンに入りました。ところが、当時は米系のコンサルティング会社といってもシステム開発が中心で、SEの仕事だった



高山氏 (高31回)

清水

私は法学部で、就職では日経新聞に受かったんですが、その前に内定を受けていたポストン・コンサルティング・グループ(BCG)で知り合った人達が10人位で新会社を設立したと聞いて、「新しい会社を作った? すげー」「一度きりの人

んでですね。経済の出だし、「もうちょっとダイナミックな仕事がないかなあ」と思っていた時に、日本の大手企業のプロジエクトでインド系の会社と一緒になっ

中野

授業は英語でしょ? すごいなあ。(笑)

清水

私は京大の理学部なんです

が、学科選択時に体力勝負のできる地質を専攻しました。就職となると地質は潰



中野氏 (高30回)

しが利かず、大学に残るのでなければ、国の研究施設か地質調査会社、もしくは石油会社ぐらいしかないんです。就職の年の86年は、円高が進み、原油の値段がガタンと落ちて、「埋蔵量があと何年?」なんて言われ始めた頃だったんですが、

中野

僕は結構いろいろ会社を移ってらんです。工学部を出て、最初は地元に戻り、トヨタ自動車に入りました。铸造工場に数年いて「このままやっていくのもなあ...」と思い始めたんです。当時は転職なんて簡単な時代じゃなかったんで、とりあえずMBAを取ることを決意して英語を勉強し、ペンシルベニア大のビジネススクールに行きました。そ

長野

産業再生機構の前ですね。そうですね。98年ですから、いろいろな会社が倒れ始めた頃です。その再建が終わって会社に戻った後、CDI出身の富山さんの誘いで再生機構に入りました。3年間で6件の再建を手がけ、再生機構解散後にシテック・キャピタルに移ったわけです。親会社のシテックというのは、鄧小平が改革開放路線で市場経済化するために作った国策会社なんです。一実業家の自由な采配に委ねられてや

「会社のお金であちこち行けるだろう」と考えて石油資源開発に入りました。最初の数年間は国内の現場を回り、その後、地質評価のデスクワークを経て、インドネシアのスマトラ島北部の探鉱に参加しました。当初3年と言われましたが、目途が立ったところで「地質屋はもういい」と言われ、1年半で帰って来ました。帰国後、石油公団にも3年出向しましたが、ちょうど採めに採めて総裁が更迭され、公団の廃止が決まった激動の時代を経験することが出来ました。2000年頃に、リビアが鉱区を国外に開放することになったんです。当時テロ支援国家だといわれてアメリカが入っていきなかつたこともあり、手付かずで残っているいい鉱区が沢山あり、数度の入札の後2005年10月の公開入札で落札、そのままリビア駐在になりました。

その後日本に帰って来て、設立後5年位で活気があったCDIに入りました。そこで机の上での経営ということを経験したんで、実際の経営をやってみたくなりました。それである通信ベンチャー会社に移籍。そこが合わなくて辞めた頃、ビジネススクール時代のアメリカ人の同級生と再会し、プライベート・エクイティ・ファンドの会社を日本と一緒に始めることになったんです。それがアドバンテッジ・パートナーズです。7年半の在籍期間のうち、5年位は自分の投資した会社の社長をしていました。当時は、会社更生法適用になった会社に更生管財人として入って再建するというのがすごく珍しかったので、NHKに出たりもしました。

ってきたという大変珍しい会社です。中国がらみといっても我々が投資するのは日本の会社で、選択基準は「中国に出て行けば伸びる」ということです。今投資している3つの会社のうちの2つがたまたま、ポッカ・コーポレーションと鳴海製陶という愛知の会社なんですよ。

長野

さて、皆さん多方面で活躍で、共通項は？というとな難しいんですが、「ダイナミック」と「一度きりの人生」でしょうか？(笑) そんな皆さんが考える「これからの日本に必要なこと」、「求められる人材」とはどんなものでしょうか？

「これからの日本に必要なこと」

求められる人材とは

高山

長野

リビアのサハラ砂漠の鉱区へは砂漠を延々と車で移動するんですね。そこにいる砂漠の民は、昔はラクダで移動してたはずなんですけど、今は車を持っている人も多いんです。彼らにとっては故障が生死に係わりますから、車に命を預けているわけです。その車が殆どトヨタのランクルで、「ベンツの新車よりぼろぼろのランクル」っていうのが神話になっちゃってるんです。なるほど。壊れないもの、安心安全なものを出していくということですね。IT

安藤

の立場からどうですか？ ITは人材交流が大事で、昔はシリコンバレーに行く人が多かったんですが、今、インドのバンガロールには韓国人が沢山IT留学に来ています。日本人もアメリカやヨーロッパへ行くのもいいけれど、インドもいいんじゃないでしょうか。インドにはスズキ自動車も30年前に進出しています。8年前にトヨタが来まして、インドで作った車を東欧に輸出しているんですね。インド経由で中近東、東欧、アフリカに日本人が出て行ってもいいんじゃないでしょうか。

中野

清水

トヨタは稀に見る勝ち組で、日本経済全体を考えるとヤバイと思うんです。中国や香港の活力って、圧倒的に違いますね。若い人の目がキラキラしていますよ。それに比べて日本は元気がない。日本に帰って来て、ご飯がおいしいのは嬉しいことなんですけど、「アメリカの子供の方が勉強しているな」という危惧を持ちましたね。アメリカの場合、問題を抱えた層がイメージやら平均を押し下げていますが、大多数はよく勉強して



清水氏 (高34回)

岡高生へのメッセージ

長野

清水

中野

ますよ。そういうこともちゃんと伝わってないんじゃないかなあ。テレビもインターネットもあるんだけど、正しい事がきちんと伝わってなくて、自分たちがどんな位置にいるのかが分かっていない。「何となく」になっちゃってる。そんな日本を救う人材としての岡高生へ、何かメッセージがありますか？ 基本的に我々田舎者なんです。田舎者なりの、事実を見る目を大事にすること。いろんなものが入って来ますから、見る目がないと翻弄されちゃうんですよ。いい意味での田舎っぽさを大事にしてほしいと思いますね。日本はこれまで横並びでやってきたんで、「他人と違うことをやる」という本当の意味での経営力が養われてこなかった。日本経済のためには新しい産業が必要で、他人と違うことをする人材が沢山出てこないんだめだと思えますね。独自性。そういう意味では岡高は自由な校風でいいと思いますよ。もう一つは海外とのコミュニケーション力。外国人が日本をどう思っているのかを知らないと思ってしまう。そのために英語は必ず身に付けないといけない道具、手段



安藤氏 (高44回)

高山

安藤

です。30越えてからアメリカに行つて英語で授業ができる清水さんには「尊敬」なんですけど、基本的には英語は早く始めたもの勝ちなんですよ。それと、「とりあえず喋る」っていう外国の人の自己主張力は見習いたいですね。全くそうですね。アラブの人達は日本人の対極で、書かせたらぼろぼろだけど喋るのは巧いんで、コミュニケーションはできるんです。それから、中野さんも言われたように岡高はわりと自由で、その代わり「自分のことは自分で考えてやりなさい」という校風でしたよね。僕ら現場の仕事なんで、刻々と変わっていく状況の中で自分で判断して切り抜けていかなきゃならない。その力は、ある程度岡高のそういった環境の中で培われたと思いますね。人材交流の話なんですけど、「人は人からしか学び得ない」と思うんですね。僕がインドの会社への転職を決められたのは、子供の頃、親の転勤でバンコクに住んでいて、インド人とも接していた経験があったからなんです。高校生の頃

長野

中野

高山

清水

安藤

司会

長野

から海外に出る体験をしたり、「出る杭」のOBと触れ合ったりする機会を段戸会で提供できたらいいですね。OBの情報を渡しちゃって「自分でコンタクト取りなさい」ということをしてもいいんじゃないでしょうか。

座談会出席者略歴

中野 宏信 (高30回)

トヨタ自動車、産業再生機構を経て現在：CITIC Capital Partners 日本代表

高山 将史 (高31回)

現在：石油資源開発(株)勤務

清水 勝彦 (高34回)

コーポレートディレクション(CDI)を経て現在：テキサス大(サン・アントニオ校) 準教授

安藤 穰 (高44回)

アングラーセンコンサルティング(現アクセンチュア)を経て現在：インフォシステクノロジーズマーケティング&ストラテジーマネージャー

司会 長野 麻子 (高42回)

農林水産省勤務 現在(株)電通(向中)



長野 麻子

段戸フォーラム

首都圏段戸会では会員同士が楽しく語り合い、親睦の和を広げることをねらいとして、「段戸フォーラム」と「段戸就職活動・キャリアアップ支援セミナー」を提供しております。

「段戸フォーラム」は生活、文化、政治、経済などさまざまな分野で目覚ましい活動をされている会員の方を講師として招き、講習会、懇談会を行うものです。すでに昨年度まで9回開かれ、会員の皆さんの寄り合いの場として定着しつつあります。今年度は6月9日と7月6日にそれぞれ第10回、



第11回のフォーラムを開催いたしました。第10回は近年の大きな関心事の一つである地球環境問題に焦点を当て、神尾由恵さん（高20回：イオン環境財団）に講演をいただきました。イオンでは1965年（当時岡田屋）、岡崎公園付近の菅生川土手での植樹活動を起源とし、その後、国内はもとより海外にも植樹を広げております。神尾さんはエピソードを交えながらこれまで行ってきた活動とともに、環境保全と社会貢献の重要性について熱い思いを語られました。当日、同期の高20回の方々が多数参加され、また、愛知、三重からも駆けつけられ、和やかなひとときを過ごすことができました。つづいて、第11回はエンターテインメントビジネス分野で活躍されている小山龍介さん（高46回：松竹）を講師として招きました。小山さんはアイデア創出術や仕事術、時間管理術で話題の「IDEA HACKS!」、「TIME HACKS!」の著者です。このフォーラムでは参加者が課題に取り組むというワークショップ形式で行われ、最新の「クリエイティブシンキング」という脳の使い方を勉強しました。限られた時間内での集中！が実感で、脳を酷使しました。時間はあっという間に過ぎ、参加者からは「仕事でも是非取り入れてみたい」という声がありました。

文責：織田利彦（高26回）

就職活動・キャリアアップ支援セミナー

「段戸就職活動・キャリアアップ支援セミナー」は若手、とくに学生の皆さんが気軽に参加でき、先輩との交流もできるような場を設けることを主眼として、昨年開設いたしました。これはビジネス等の第一線で活躍されている諸先輩を講師として招き、就職活動における留意点や就職突破の秘訣の伝授、さらに様変わりした最近のビジネスの実態について語っていただくものです。昨年度は「段戸就職活動支援セミナー」として3回開催し、書物やマスコミなどでは触れられていない裏話が好評を呼びました。今年度は就職のみならず、起業、再就職等も視野に入れ、上述のように改称いたしました。第4回（8月3日）はさっそく起業にスポットを当て、「ザ・起業家」をテーマとして世代の異なる二人の起業家、太田栄之さん（高11回）と松尾直樹さん（高44回）を講師に招きました。太田さんはビジネスマンとして脂の乗りきった44歳のとき、化学会社の管理職というポジションを捨て、結婚情報会社「ツヴァイ」を創業されました。その後、業績の低迷などの苦難を乗り越え、2004年に上場を果たすまでに至りました。また、松尾直樹さん（高44回）は東大法学部在学中に仲間とともにIT事業を立ち上げ、現在も日々事業にいそしんでおられます。セミナーでは、マスコミ等で報道され

るような華やかな話はなく、起業当時の志、仲間との出会い、ビジネスモデルの形成、そして常につきまとうリスクとの戦いなど、チャレンジャーとしての心意気、苦労話を熱く語っていただきました。セミナー聴講は30歳台前半の方が主流を占め、関心の高さを改めて感じました。次回は「留学」をテーマに現在企画中です。乞うご期待！です。

文責 織田利彦（高26回）



首都圏段戸会オープンキャンパス レポート

「首都圏段戸会」活動の一環として計画されていたオープンキャンパス初の試みが、去る8月11日(土)東京大学本郷キャンパスで実施されました。

当日は猛暑のなか引率の先生と連携しながら首都圏段戸会世話人の筒井貴之君(高45回)、アテンダント

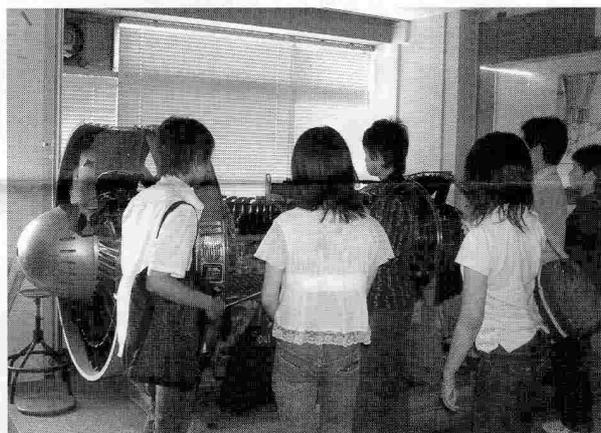
として安藤美保さん(高54回)、近藤宏樹君(高57回)、岡田佳祐君(高57回)が汗を流してくれました。

これを機として、この活動が他大学へも広がることを期待したいと思います。以下当日のレポートをお届けします。(編者)

「オープンキャンパスレポート」文責：安藤美保(高54回)

去る8月11日(土)、首都圏段戸会では初の試みとなるオープンキャンパスが東京大学本郷キャンパスにて開催されました。企画案が持ち上がったのは6月半ば。小林先生のご快諾を得て現役岡高生に周知していただいたところ、今回は2年生2名と3年生2名(ちょうどSSHで上京していました)、SSH引率の彦坂先生、幹事の筒井(高45)、アテンダント(東京大学学生)3名の計9名でのキャンパスツアーとなりました。しかし当日は記録的な猛暑の真只中。全員汗だくになりながら、広い構内を回ってきました。

今回は安田講堂、三四郎池、歴史漂う総合図書館など東大



の名所を見てもらうことはもちろん、生協購買部や食堂、講義室等にも足を運び、キャンパスライフを肌で感じてもらうことも目的のひとつでありました。実際に大学に通う学生から見た東大の魅力が伝えられることこそが、段戸会オープンキャンパスの強みであると考えたからです。大学側が主催するものではこのような密な部分まではカバーできないでしょう。

しかしながら当日は夏季休業期間の土曜日ということもあり、学部の建物は閉鎖されており、「学ぶ場」としての東大を見せきれなかったのが残念でした。参加者には事前に興味のある学部・学科の希望を聞いてはいたものの、該当学部へのアポイントメントまで漕ぎ着けられなかったのは次回への反省点といえます。今回は、アテンダントが在籍する工学部航空宇宙学科に於いて実物大の航空機エンジンに触れ、農学部の研究室では最先端のバイオテクノロジーを体感できたようです。

この体験が参加者の皆さんにとって有意義なものであり、将来像を描くきっかけになれば嬉しいです。そして来年度は企画とアテンダントの更なる充実を目指し、多くの学生に参加してもらえたらと思っています。



《趣味の会》に関するお問い合わせ

皆さまの参加をお待ちしております!

“段戸囲碁会”(代表：藤田訓弘 高13回)
kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸華教室”(代表：篠原貴子 高48回)
takako@zj8.so-net.ne.jp

“段戸音楽会”(代表：長野麻子 高42回)
ZWQ10632@nifty.com

“段戸俳句会”(代表：本多正之 高13回)
masa-honda@cnc.jp

“段戸「山の会」”(代表：板谷敏正 高34回)
itaya@propertydbk.com

“段戸ゴルフ会”(代表：木村富司雄 高10回)
BYR10566@nifty.ne.jp

首都圏段戸会に関するお問い合わせは、ホームページの問い合わせ欄、
またはメールアドレス nqd28299@nifty.com へ送信下さい。

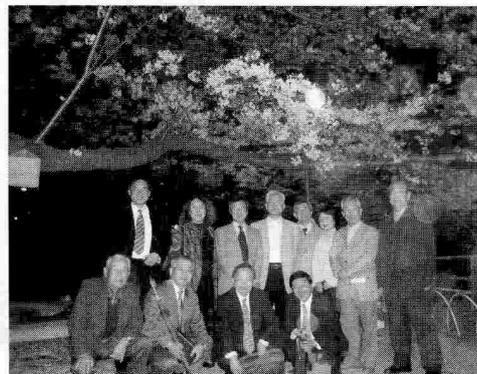
花見の会

〈第2回段戸花見会、大盛況里に無事終了!〉

4月2日(月)ダイヤモンドホテルで行われた段戸花見会、高1回~高27回の20名の参加者(昨年は12名)で午後6時15分から開始。和気藹々の雰囲気の中、岡高時代から現在にいたるまでの自己紹介、その後、相互に情報交換し、8時30分からは千鳥が淵をそぞろ歩きしながらの見事な夜桜見物を満喫しました。



九段で三々五々解散しましたが、当初“夜は雨”の天気予報がうそのように9時30分まで持ちこたえ、無風で結構暖かく、絶好の花見が出来ました。来年も開催しますので大勢の参加を期待しています。



(文責：藤田訓弘(高13回))

段戸ゴルフ会

〈第4回段戸ゴルフ会(07年春季)報告〉

今回は、6月15日、八王子カントリークラブにて、文字通りこじんまりと開催しました。

当初は、富士小山にて5月開催を計画しましたが、段戸ゴルフ会コンペ、各年度ゴルフコンペ、或いは悠々自適組、現役パリパリ組と、多士済々のメンバー諸氏との日程調整等の問題もあって、思うように参加者が集まらず、急遽開催場所を近場の八王子カントリークラブに変更し、こじんまり(出場者は高10回、高13回、高16回の9名)とではありますが、それなりに楽しめようという事で、開催いたしました。



文責：木村富司雄(高10回)

当日は梅雨空の筈が一転快晴、却って日差しが強い1日となりました。

優勝はしぶとく高10回の宇佐美さん、バスマグロは高16回の鈴木さんでした。

八王子カントリーはそれなりに奥が深く、当初から2つ3つ多く叩かなと予感しておりましたが、思ったとおりの結果でした。

今後もいろいろな形を考えながらこの会を継続し、皆様との再会、出会い、親睦を楽しみたいと思っております。次回も多数ご参加下さい。

トピック!

会報に連載されている「座談会シリーズ」も、今回の秋号で3回目となります。この座談会記事を陰で支えてくれているのが、上田洋子さん(高22回)です。通常約1時間程度、出席者の皆さんにお話いただくのですが、収録された内容を発言者を特定しながら全て活字に落とす作業は、大変な困難と労力が必要です。初版は約10,000字程度になりますが、彼女は第1回から引き続き

この苦勞を引き受けてくれています。同窓会活動は、勿論皆さんボランティアで為す事ですが、一言でボランティアと言えない苦勞の多い緑の下の支えです。



編集後記

年2回(春・秋)の会報発行が定例化され、編集者としてはうれしくもあり追いかけれられもしと言った心境です。特に、地元岡高在校生への配布が春号のみでなく、今回から秋号もということになり、編集ターゲットも首都圏在住のOB・OGといった幅広い年齢層から現役高校

生まで、多種多様なニーズにいかに対応して行くか、また同窓会活動を首都圏としていかに伝えて行くか、常に頭を痛める問題です。今後も皆さまの応援、よろしくお願い申し上げます。(S&N)

第36回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

首都圏段戸会会長 外 村 仁

秋涼の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今年も首都圏段戸会の総会・懇親会を下記のとおり開催することと致しましたので、お繰り合わせの上是非ご参加下さいますようご案内致します。

今年の総会では、例年の講演会に代えて、近藤恵子先生をお招きして、岡高コーラス部OB・OG演奏会を行います。近藤先生のご指導を受けた首都圏在住のOB・OGと、遠く岡崎から馳せ参じた岡崎混声合唱団（岡高OB・OGを中心に編成；H18年度全日本合唱コンクールにおいて金賞・文部科学大臣賞を受賞）のメンバーが一体となって、美しいハーモニーを奏でてくれることと思っておりますので、どうぞご期待下さい。

また、恩師の先生方も8名お招きしております。懐かしい昔話に花が咲き、新しい発見に驚き、世代を超えた絆が実感できる1年に1度のチャンスですので、どうぞ奮ってお出かけ下さい。

記

●日 時 平成19年12月8日（土）13：30～17：00

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）
千代田区九段北4-2-25（同封地図参照） TEL 03-3261-9921
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）から徒歩2分

●プログラム 岡高コーラス部OB・OG演奏会

●会 費 男 性 8,000円 女 性 6,000円

☆割引制度

- ・古稀を過ぎた会員（高7回以前） 5,000円
- ・夫婦割引 同伴の女性会員は半額の3,000円
- ・若手割引（高45回以降） 5,000円
- ・学生割引 1,000円

☆ご招待制度

- ・古稀を迎えられた会員の方は、ご招待（会費無料）とさせていただきます。
- ・今年度対象者：高校8回（昭和31年3月卒）の皆さん

●招 聘 恩 師 近 藤 恵 子 先生（音楽） 宮 川 澄 夫 先生（数学）
（ 予 定 ） 藤 岡 寿 美 子 先生（保健体育） 小 清 水 重 之 先生（数学）
山 田 澄 江 先生（保健体育） 加 藤 悟 先生（国語）
市 川 崇 先生（国語）

●事前会員登録のお願い

総会・懇親会にご参加いただける方で、首都圏段戸会の会員登録がまだお済みでない方は、お手数ですが、首都圏段戸会ホームページ（<http://homepage3.nifty.com/dandokai/>）の「会員登録・変更」のページから事前にご登録頂ければ幸いです。

2006年(H18)年 首都圏段戸会総会への出席者の一覧

(恩 師)	藪田敏行 村田 豊 鈴木 楽子	(高14回)	天野 彰 磯村澄江 糸田輝義 近藤陽三 清水拓夫 中島綾子	磯尾 進 大館真弓 近藤寿子 笹瀬 修 長井佐紀子	(高25回)	戸田讓三 樋井和徳	戸田妙子	
(高1回)	山本 治				(高26回)	大山幸信 畔柳 誠	織田利彦 竹田優子	
(高2回)	青山敦夫 今井敏夫 近藤賢八郎	石川 隆 太田 久 服部 登			(高27回)	長田光雄 岸 洋平 山崎正枝	河原仁志 宮川龍也	
(高3回)	伊藤芳枝 加藤正義 木村 博 鈴木俊幸 中堀正章 蜂須賀芳昭 松井淳子 米津勇美	宇津野隼千 鏑木道子 久保雅之 高井美智子 丹羽 鼎 平井英次 柳澤玖枝	(高15回)	深田正義 大山達雄 鈴木貞雄 伊与田正彦 柴田秀樹 鈴木光治 竹嶋栄子 中野房子 東新家英二 廣田幸子 福島黎子 山田博子 吉野 功	山岡靖弘 木村隆義 野村親信 佐伯寛子 鋤柄陽子 鈴木 寛 徳倉哲夫 林田幸子 東松孝昌 深谷美智子 武藤隆子 横田不二子	(高28回)	石田邦雄 三枝奈芳紀 鬼澤敬子 宇野嘉修 米津智徳	酒井邦彦 竹内 彰 木村美穂子
(高4回)	太田 工 柴崎美津子 成瀬榮二	金田せつ子 清水善夫	(高16回)	福島幸子 福島黎子 山田博子 吉野 功	徳倉哲夫 林田幸子 東松孝昌 深谷美智子 武藤隆子 横田不二子	(高29回)	高原正之 藤井義之	野木村美紀
(高5回)	青柳公子 杉浦正健	杉浦郁子	(高17回)	石原莊介 山崎悦道	徳倉哲夫 林田幸子 東松孝昌 深谷美智子 武藤隆子 横田不二子	(高30回)	高岡由恵 原 えつ	田畑誠子 堀内友二
(高6回)	有馬弘政 長瀬けい子	小六要子 森 哲朗	(高18回)	安藤 昭 岡部芳郎 近藤陽一 高橋伸芳 竹内由紀江 中島邦子 野澤信一 福島安史 宮崎収兄	清水久雄 石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高31回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子	田畑誠子 堀内友二
(高7回)	青山明博 大林通浩 是津定利 近藤 衛 杉山 修 永田綾子 羽谷 允 村上漣子	市川 毅 岡田 遷 小六英介 斎藤悦子 高橋里恵子 二村庄三 吹拔敬彦 森 周子	(高19回)	天野隆太郎 遠藤 昇 笠井次郎 北野光敏 関戸博高 成田雅則 細井土夫 矢吹 清	石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高32回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高8回)	工藤圭章 杉本和彦 高橋道人 西山啓二	杉浦嘉久 外村 仁 田中厚生	(高20回)	渥美忠男 大水 博 酒井泰雄 澤木啓子 関田久美子 内藤良江 兵藤幸治 山田俊文	石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高33回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高9回)	高木治子		(高21回)	渥美忠男 大水 博 酒井泰雄 澤木啓子 関田久美子 内藤良江 兵藤幸治 山田俊文	石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高34回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高10回)	宇佐美忠利 藤墳成幸	木村富司雄 山川肇爾			石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高35回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高11回)	青木かゑ子 梅村豊子 竹嶋俊紀 成瀬昌芳 服部豊治 本多慶成	今井哲夫 杉山樹三郎 中根 淳 橋本晃芳 林 泰子 山崎宣典			石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高36回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高12回)	稲垣早苗 上妻親司 鶴田文男 吹拔洋司	岩月一詞 近藤祥子 成瀬 徹 星野陽一			石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高37回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
(高13回)	犬塚志朗 藤田訓弘 吉村彦三郎	中 浩之 本多正之	(高22回)	青山裕治 内海正富 中村賢治 清水郁夫	石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高38回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
			(高23回)	清水郁夫	石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高39回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高40回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高41回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高42回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高43回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高44回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高45回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高46回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高47回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高48回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高49回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高50回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高51回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高52回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高53回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高54回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高55回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高56回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高57回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫
					石樽直美 香村幸夫 宍倉由美子 高橋 裕 時田和芳 南郷 孝 則竹千恵子 福山 透 村木央明	(高58回)	高岡由恵 原 えつ 山田喜代子 板谷敏正 高田由美子 鳥居隆志 吉村玲子 板倉信吾 鈴木俊英 古澤昌宏	田畑誠子 堀内友二 鈴木広之 高橋智江子 山下 薫